

2017年度(平成29年度)実施の交付金事業の効果検証について

交付金	地方創生推進交付金	主管課	シテイセールス課
事業名	あかし市民広場から地域の魅力を発信		
1 明石市第5次長期総合計画および総合戦略での位置づけ	長期総合計画における位置づけ：4まちを元気にする 4-1 地域産業を元気にする 総合戦略における位置づけ：まちの賑いを高める		

2 事業概要	あかし市民広場を活用したラジオ、テレビなどの公開録音・公開録画や地域資源を活用したイベントの実施、明石の歴史、文化などの情報発信をすることにより、市域全体の賑わいの創出及び回遊性の向上を図っていく。 【あかし市民広場の利用状況(平成29年度)】 利用件数：324件、利用者数：278,434人(貸館、自主イベント)、利用率：81.6% 【平成29年度実施事業】 ○主なイベント ・8月5日、6日：ゆるキャライベント(ゆるキャラ9体、参加者2,470人) ・11月25日、26日：B-1グランプリ西日本大会関連イベント(内容：本会場からの生中継、デジタル水族館、明石まちなかスタンプラリー記念品引換など、参加者11,000人) ・12月31日：カウントダウンイベント(内容：BMX試乗会、ストリートスポーツショー、WORKSHOPなど、参加者366名) ・1月1日、2日、3日：正月イベント(内容：書初め・書道パフォーマンス、エアークレーターの設置、1周年記念ボールペンプレゼント、正月装飾、しくみデザイン放映、参加者1,926人) 【交付金充当事業】 ○ラジオ関西番組の公開録音 ・9月23日：「ばんびひろふみ!2019明石城築城400年」 ・10月26日：「2017西日本B-1グランプリin明石!もう待ちきれない!」 ・2月4日：「大地・みなみのカレーチャージャーハン」
--------	--

3 本事業における重要業績評価指標(KPI)	観光客入込数	525万人	(平成26年度実績値489万人)
	20代、30代の人口増加数(転入超過数)	850人	(平成26年度実績498人)
4 本事業終了後における実績値(平成29年度)	観光客入込数	559万人	
	20代、30代の人口増加数(転入超過数)	1,518人	

5 指標値と実績値に増減があれば、その主な理由	観光客入込客数については、明石公園で2017西日本B-1グランプリin明石の開催(約17.3万人)などがあつたことにより、観光客が増加した。
-------------------------	--

6 事業目的	明石の魅力を広く市外に発信することで、明石のブランドイメージを醸成するたため。また、市外に住む人に来訪を促し、移住・定住促進を見据えた活動につなげるため。
--------	---

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	合計
事業費(計画額)	1,500千円	4,500千円	4,500千円	12,000千円
交付金額(1/2)	750千円	2,250千円	2,250千円	6,000千円
事業費(実績額)	1,500千円	4,500千円		
事業費(内訳) 委託費	1,500千円	4,500千円		

7 事業効果	【事業を実施した効果と課題】 あかし市民広場が市民の憩いと交流の場として活用されることに努めた。市民に施設の認知を上げていくため、ラジオ、インターネット、SNSなどの媒体を活用した情報発信に積極的に取り組んだ結果、観光入込客数が増加し、市民広場も年間81.6%の高い利用率を維持できた。 【今後の取り組み】 積極的なイベント誘致及び自主イベントを開催し、恒常的な賑わいを創出していくことで、市民の憩いと交流の場として活用されることにつなげていく。
--------	--

8 長期総合計画推進会議における評価	(1)意見 ・本事業におけるKPIについて、観光客数、20代、30代の人口増加数ともに、大幅に達成しており、効果的な取組が実施されていると評価できる。 ・様々なイベントを実施しているため、利用者を更に増やすため、広報の仕方を工夫するべきである。 ・障害者をはじめ、多様な利用者に配慮したイベントの実施や設備等の整備も必要である。 ・魅力を発信する観点からも市外からの観光客数を把握することで、事業の改善に役立ててほしい。
--------------------	--

9 実績値や外部有識者からの評価を踏まえた事業の今後について	(1)今後の方針 事業の発展(取組の追加等)を行う。
--------------------------------	-------------------------------

(2)今後の方針の理由	多様な利用者に行き届く限り配慮したイベントの運営や設備等の整備について検討し、さらに多くの市民の憩いと交流の場となるように努める。また、利用者のニーズに合わせた運営をするため、利用者の属性把握に努め、利用者増加を図っていく。
-------------	--

(2)事業評価	①本事業が、「まちの賑わいを高める」ために有効であった ②本事業が、「まちの賑わいを高める」ために有効とはいえなかった
---------	--